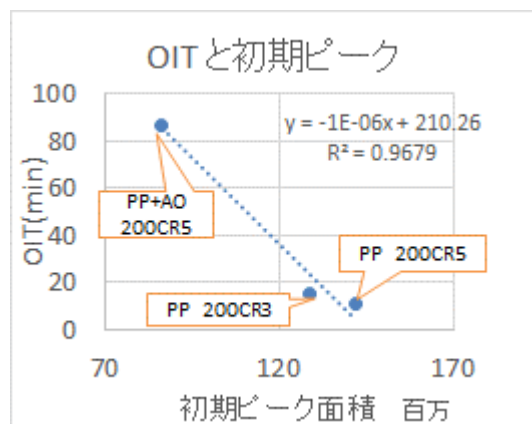
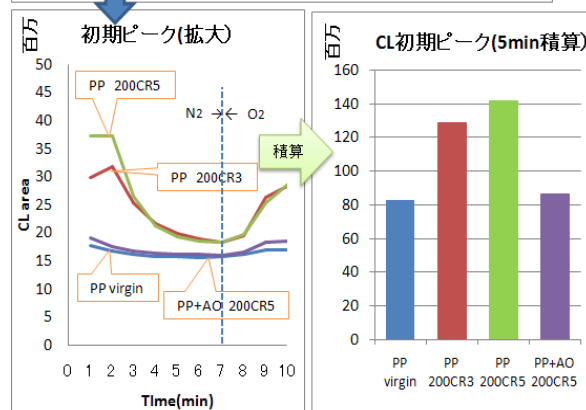
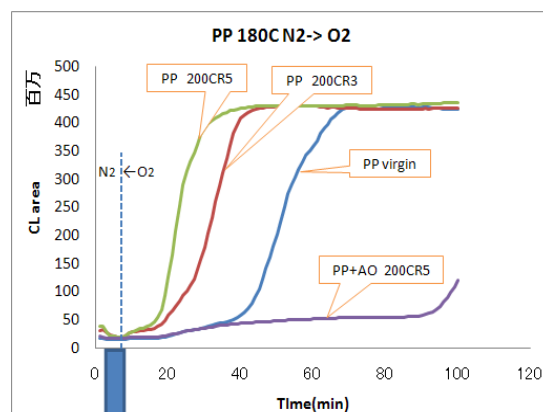
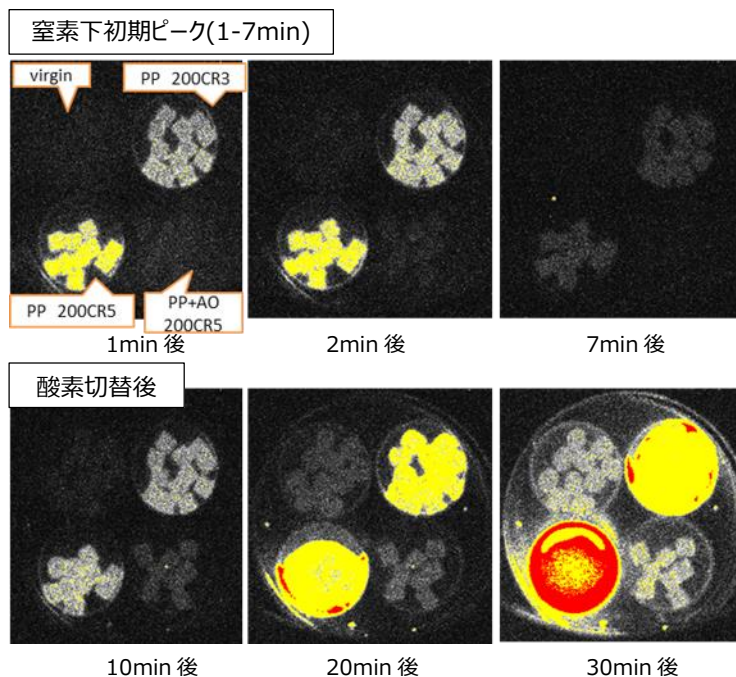


ケミルミネッセンス法による初期発光ピークと OIT(酸化誘導時間)の関係

ケミルミネッセンス法による初期発光ピークは過酸化物質と相関し、その材料の“その時点”での酸化度を表す。一方、酸素、加熱下で測定を行う OIT (酸化誘導時間) 測定では“その後”の酸化のしやすさを表す。そこで初期発光ピークと OIT との相関を見た。

サンプル	Polypropylene (PP) 、①virgin、②200℃押出回数 3 回品、③200℃押出回数 5 回品、④添加剤 (AO) を含む PP の 200℃押出回数 5 回品
測定装置	東北電子産業(株)製 本体：CLA-IMG4 試料室：CLS-ST4
測定方法	Gain1=1,Sens=255、露光時間 1min、測定温度 180C 測定条件：5cm のステンレスシャーレ上に 2cmφ のアルミシャーレを置き、各 PP ペレットサンプルをセットした。 最初 7 分間は窒素フロー下で初期発光ピークを測定し、その後酸素フローに切り替えた。サンプルは以下の順で並べ、コントラスト 7434-1369 で表示している。

<結果>



	200CR5	200CR3	200CR5+AO
初期ピーク	1.42E+08	1.29E+08	86311555
OIT(min)	11	15	87

結果：劣化度の高いものほど初期ピークの発光量が多く、かつ OIT は短かった。vir を除いた 3 種では初期発光ピーク（初期の劣化度）と OIT には高い相関が見られた。

ケミルミネッセンスアナライザーへのお問い合わせは

東京支店：044-411-1263
本社：022-266-1611
利府事業所：022-356-6111

TEIHOKE 東北電子産業株式会社

本社：仙台市太白区向山 2-14-1 TEL022-266-1611
web <http://www.tei-c.com> mail sales@tei-c.com